第３回総合球技場検討委員会　会議録

○　日　時　　平成２８年8月２５日（木）　午後３時３０分～５時１８分

○　場　所　　山梨県庁防災新館２０１会議室

○　出席者

・　委　員（５０音順）

足立委員、有賀委員、海野委員、河村委員、小林委員、小宮山委員、佐々木委員、佐藤委員、田中委員

・　県　側

吉原総合政策部長、小島総合政策部次長、依田リニア推進課長、秋元エネルギー政策課長、望月都市計画課長、小泉スポーツ健康課総括課長補佐

（事務局：政策企画課）末木政策企画課長、渡辺政策主幹

○　会議次第

１．　開会

２．　総合政策部長あいさつ

３．　議事

（１）第１回・第２回の検討委員会のまとめ

（２）今後の検討の流れについて

（３）総合球技場のあるべきすがたについて

（４）収容人数等基本的施設の規模について

（５）施設に付加されている機能例について

４．　閉会

○　内　容

１．開会

司会：渡辺政策主幹

２．総合政策部長あいさつ

本日は大変多忙の中、出席いただき誠にありがとうございます。

また、先月７月 24 日には休日にも関わらず長野県長野市と松本市の球技場の視察をいただき、重ねて御礼を申し上げる。

本日は第３回目の会議ということになるが、総合球技場の機能や規模について検討いただくことを予定している。

今後、具体的な内容について検討を進めていくということになる。ぜひそれぞれの立場からの意見・提言をいただけるようお願いする。

３．議事

議長：委員長

（１）第１回・第２回の検討委員会のまとめ

議題（１）について、資料１－１、１－２により事務局から説明した。

（委員長）
こちらについては、説明のとおりでよろしいか。特に問題ないようであれば議事の１については了解いただいたということにさせていただく。

（２）今後の検討の流れについて

議題（２）について、資料２により事務局から説明した後、次のとおり意見交換を行った。

（委員）
検討の流れを作って議論しようということで考えているとのことだが、施設の規模や機能等は専門的な人にみていただくことで、それほど議論する必要がないような気がする。場所や費用をどうするのかなどを、本当は次回くらいからもう少し前倒しで議論をしていく方が内容の良い報告書ができるのではないかという気がする。一番肝心なことを最後に決めてしまおうという印象を受けるので、もう少しそこに時間をかけたら良いのではないか。

（事務局）
進め方についても本日意見をいただきたいと思っている。施設規模や、機能といった事項を協議し、それらを前提とした上で、更には運営をどのようにしていくか、候補地をどこにするのかという流れになっていくのではないかと事務局では考えたため、アプローチとしてこの流れを提示している。また検討を進めていく中でこの項目が場合によると前後することが当然あろうかと思う。

（委員）
こういった事業を家計に例えると、例えば家にあたると思う。その時に機能とか規模とかはゴージャスな方がいい、機能等もすべて最先端のものにしたい、庭も広くしたい、できれば立地も良い方が良いという話になると思う。
民間の私たちの考えで言うといくら投資できるのか、いくら銀行から借りられるのか、そういう話から入っていくと思う。どのように資金調達をしていくのかという方法によっても違うと思うが、委員の言ったことは非常に賛成で重要かと思う。
それと同時に、今アセットマネジメントが非常に重要だと位置づけられているため、ランニングコストがどのくらいかかるのかを整備するときに検討し、コストを抑えるためにはどうしたら良いかという方法論を議論することが必要ではないかと思う。
もう一点として、リニアのまちづくり委員会が県にあると思うが、これは場所に関係するかと思うので、必要ならば議論を重ねないといけない内容もあるのではないかと思う。

（事務局）
検討いただく項目は非常にたくさんあり、なかなか全て一緒にという訳にはいかない。事務局として順番に提示をさせていただいた。委員のみなさまの発言も含め、流

れについては改めて検討させていただきたいと思う。
「リニア環境未来都市」の中には、総合球技場も位置づけがされている。リニア環境未来都市の議論と足並みを揃えて総合球技場の検討委員会も進めていくべきという認識を持っているので、その点については連携を密にとり今後も進めていく予定である。

（委員長）
ただいまいただいた意見について、特に指摘のあった費用と立地の話について、費用のところは第４回くらいで概算がわかっているのであれば、それを踏まえて話をした方が実のある議論になると思う。立地についても第５回にきて、すんなり決まることになればいいがそれはなかなか難しいと考えられる。もう少し議論の時間をいただいた方が良いと思う。
また交通アクセス等のことを考えると、立地の話が決まらないとどのように整備するべきかという話も難しいと考える。そういう意味では立地のところも含めて少し前倒しできないか検討いただきたいと思う。
もう一点、今話のあったリニア環境未来都市の件だが、これも先日提言があったかと思うのでそういった情報等もできればこの委員会に提示いただいて、どのような議論論でどのような形になっているということを示していただきながら立地の話をする方が良いと思うので、全文という話ではないが必要な情報をこちらに提供いただきたいと思う。

（事務局）
資料２に記載してあるが、第４回の整備・運営手法の検討で、施設の想定される収支等については資料を提示させていただきながら議論いただきたいと考えている。

（委員長）
意見をいただいたので、進め方については私と事務局とで相談しながら、いただいた意見をもとに次回以降前倒し可能ならできるようにしたいと思うので了解いただければと思う。次回に費用と立地の話ができないか、相談したいと思う。

（３）総合球技場のあるべきすがたについて
議題（３）について、資料３－１、３－２により事務局から説明した後、次のとおり意見交換を行った。

（委員）
新たな球技場という意味では、臨場感、・躍動感の感じられる総合球技場にするべきだと思う。また、基本的に県が整備することを考えると、ふるさと山梨に対する誇りや、県民一体感の醸成、賑わいをもたらすランドマーク的な位置づけとすべきであると考えている。
また一方で、地方創生ということが今非常に叫ばれているので、地方創生に貢献できる施設とすべきではないかと考えている。具体的には、例えば直接的には関係ないかもしれないが、定住とか移住とか交流の促進に寄与すること、あるいは地方創生からみていうと都市のコンパクト化との関連性において、防災拠点としての効果が最大限に発揮できるようにするなどの視点も必要ではないかと思う。
また、地域活性化という面で考えると、ここにも「交流人口の拡大などにより地域

の活性化に貢献する球技場」と書いてあるが、ここが非常に大事なところではないかと思っている。

例えば今回サッカーとかラグビーとかアメリカンフットボールとか出ているが、サッカーでいうならばヴァンフォーレ甲府は山梨の観光資源でもあるし、またスポーツツーリズムの資源になり得る部分があるのではないかと思っている。つまり、地域活性化に貢献する球技場としては、スポーツ観戦者に例えば観光情報やその他のスポーツ情報を提供し、観てすぐ帰るのではなくなるべく滞在をしてもらうなど、スポーツを核とした誘客施設との関連性も今後考えて検討すべきであると考えている。

もう一点、ご存知のように 2019 年は甲府が開府されて 500 年、2021 年は信玄生誕 500 年をむかえる。長い歴史の中で山梨の歴史・文化・政治経済を担ってきた甲府市の中心市街地に少しでも寄与できる施設といった観点をぜひ忘れないでひとつの理念として入れていただければありがたいと考えている。

（委員）

リニアの開業は 2027 年の計画で、大阪までは前倒しになるようだが計画では 2045 年となっており、あまりにもリニア開業は先すぎる気がする。総合競技場を山梨につくる上で、競技場の本当の意味での価値や必要性をきちんと議論をすることが大事ではないかと思う。

（委員長）

そもそもこれは球技場の整備ということなので、どういう球技場が望ましいか、アスリートファーストなど競技をする方々の視点も含めて、どのような形がいいのかというのをきちんと考えるということが大切と思っている。

（委員）

あるべき姿として入れた方が良いと思うのが、地域の産業の活性化、それと県民の健康増進の推進に寄与するスタジアム、という内容である。

今から具体的な設備施設等は議論していくが、多機能複合型の施設、スポーツ観戦のみならず県民の生活拠点として確立できるような、何か楽しみがあるような多様な交流を生むようなことも考えなければいけないと思う。また、健康増進という意味でトレーニング施設や、県民の皆さんが有効に活用できるような公共のあるべき姿を方向性の中に入れた方が良いのではないかと思う。

（委員長）

観るスポーツからするスポーツへの効果に関しては、県民の方々が参加するということも含めて健康増進という拠点にもなり得るという話だと思う。健康増進というのも産業の活性化につながるという指摘かと思うので、そういった視点も入れたいと思う。

（委員）

健康増進等に関しては、スポーツを純粋に考えていくという議論が一番大事ではないかと思う。

それと先ほどの「リニアの開業の立地の優位性を生かす」という非常に将来に向かって夢のあるような話からスタートしているが、その後「本県の身の丈に合う」という表現になっている。もう少し夢のあるような形の中で、山梨の将来の発展にどうしても必要という考え方が、ある程度必要ではないかと思う。

（委員長）
　指摘いただいたようにインフラ投資という意味で将来どう活かしていくかという意味でこの整備・運営を考えていただきたいということだと思う。また、市民の皆さんがスポーツする、これが地域活性化の拠点となるためには、みなさんがスポーツに関心がないとあまり意味ないため、健康増進の拠点であるべきだと思うので意見を反映していただければと思う。

（委員）
　コストセンターからプロフィットセンターへということが最近よく言われるが、当該施設については、基本的には初期投資の回収が難しいことはもちろん、ランニングコストについても持ち出しというところはしっかり認識した上で、地に足をつけて計画を作っていくことが重要だと思う。
　その意味で、初期投資だけでなく、ライフサイクルコストの負担額を把握し、それが今後の財政運営上どの程度のインパクトがあるのか、といった点をしっかり分析することが重要だと思う。
　あと、当然ながらコスト対効果の観点が重要。例えば、数十億、数百億と多額のコストがかかったとしても、それを上回るような地域にとってのベネフィットがあれば良いわけであり、その逆も然り。コスト／ベネフィットについては、完成した後も地域や住民、議会等への説明責任を継続的に求められるところであろう。定量的な効果の把握は、どこの地域も課題で難しいところはあるが、コストの絶対額だけでなく、コストとリターンのバランスをしっかりふまえて計画を推進していくことが重要だと思う。

（委員）
　資料３－１でスポーツ庁の動きなど、近年の考え方がまとめられ、資料３－２で本県の整備の考え方が示されている。これは資料３－１に書いてあることも含めて本整備で目指すと理解してよろしいか。

（事務局）
　資料３－１については最近の国の考え方を客観的に述べたもの、資料３－２についてはあくまでも検討委員会で出されたこれまでの意見を簡単に整理したものなので、あくまでも資料３－１を無視して資料３－２があるということでなく、両方が一緒になってあるべき姿を考えて意見をいただきたい。

（委員長）
　資料３－１がどちらかというとベースというか考え方となっていてその中で特に今回整備を検討する総合球技場というのが、それに加えどのような視点をもつか、山梨らしさを反映し資料３－２でまとめていると思うが、資料３－１で出てくるようないくつかの視点もうまく資料３－２の方に入れていただきたいと思う。
　また先ほど指摘いただいたが、投資に対して、どのようなベネフィットがあるかということも含めて次回以降に費用と合わせて議論の資料として提示していただきたいと思う。

（委員）
　立地の視点に関して、「リニア開業による立地の優位性を活かす」とあるが、つまり

リニアの駅ができて、そこの近くにスタジアムをつくるということか。リニアの甲府駅の検討委員会等とのからみはどうなっているのか。

（事務局）
　リニア新駅を中心としてほぼ半径４km のエリアを「リニア駅近郊」という言い方をしている。リニア環境未来都市の素案の中ではそういった表現をしており、総合球技場はリニア駅近郊に位置づけられ、交流の拠点となり得る施設とすべきと明示されている。
　第１回目の資料で若干触れているが、さまざまな交流が展開する場所ということで、総合球技場で開催されるスポーツイベントを通じた多様な交流の展開などが、リニア環境未来都市の検討委員会の資料として示されている。
　今の時点ではリニア環境未来都市の考え方と歩調を合わせる必要があると考えているのであくまでも今の時点では半径４km、リニア駅近郊として考えている。
　具体的に言うと南甲府駅や、小井川駅常永駅も入る。東の方にいくと小瀬スポーツ公園も入る。南は食品工業団地も含まれる。
　今回の整備については、２月の定例県議会で知事から表明があり、「建設場所については、総合球技場の機能を最大限に発揮できるよう、交通の利便性が高く、本県を象徴する地域となる小瀬スポーツ公園周辺を含めたリニア駅近郊への整備を目指すこととし、リニア未来都市における施設として位置づけて参りたい」という考えを示している。

（委員長）
　リニア環境未来都市において、近郊は４km ということで、ここで議論いただくが、その中で可能な案があればというところになるかと思うので、基本的には４km の中で考えるということかと思う。

（委員）
　場所がリニアの新駅とリンクする話は理解できたが、建設時期については、リニア開通は 10 年以上先の話であり、リニア開通を待たずに整備するというのもみなさんの共通認識で持っておいた方がいいのではないかと思う。
　先ほどスポーツ未来開拓会議の中間報告が２ヶ月前に出たものを、ぜひこれもあるべき姿として入れてほしいが、国は支援をする意志を持っているので、ぜひモデルケースとして取り上げてもらえるような計画を早くこちらがつくって国に持って行く様なことが必要だと思う。立地がリニアの駅とリンクするというのはわかるが、時期まで合わせる必要はないと思う。

（事務局）
　将来的にはリニアが開業するということを視野に入れた記述であると理解いただければと思う。おそらく整備する時期というのは先ほど委員も言ったように財源的な部分との関係もかなりあるのではないかと考えているが、今後、財源・費用の部分もみなさま方からの意見を踏まえながら、整備時期についても先延ばしすることなく決めていくべきだと考えている。

（委員長）
　立地についてはリニアとリンクするが、時期については特にリンクするわけではないということで整理をお願いする。委員の指摘のとおり今非常に国が積極的に取り組

んでいるという話もあるので、それと歩調を合わせて色々とできるようであればぜひ進めていただきたいと思う。
　様々指摘いただいたように球技場であるということをきちんと考えて欲しいという話や、そのほか地域活性化、大きな意味ではまちづくりになるが、そういった視点がわかるようにしていただきたいという話と、投資という話でどのような費用がかかってどのようなベネフィットがあるかそういうところをきちんとわかるようにしないと良くないのではないのかという話もあった。ぜひ次回の委員会に意見を反映した資料の提出と説明をお願いしたい。

（委員）
　次回ある程度具体的な場所、予算、費用的にはどのくらいかかるものを想定しているのかをどの程度提示いただけるのか、また、収容人数に関してクラス１くらいとなっているが、それが費用に関係してくると思うのでそのあたりも早めに議論できればと思っている。

（事務局）
　本日議論いただく規模、付加すべき施設といったことがやはり金額的なものにも大きな影響を与えてくると考えているので、本日の議論が大前提になると考えている。また、候補地について次回出せるかについては事務局の方で再度検討させていただければと考えている。

（委員長）
　先ほど指摘いただいたリニア環境未来都市、第１回目の資料にあったということで、それも含めて立地可能な場所はそれほどたくさんないと思うので可能ならばぜひ次回提示いただきながら、その方が議論も進みやすいかと思う。
　次の議題の規模、こちらも費用に関係してくる話なので、今日は議論させていただきますが、費用についても次回には説明いただきたいと思う。

（４）収容人数等基本的施設の規模について
　議題（４）について、資料４－１～３－４により事務局から説明した後、次のとおり意見交換を行った。

（委員長）
　ただいま資料４－１から４－４まで説明いただいた。特に競技のフィールドについて各競技団体に意見いただきたいと思う。併せて収容人数、観客席の規模についても色々な規定とこれまでの事例から言ってこれくらいは見込める等の話があると思う。こちらにつきまして意見をお願いする。

（委員）
　それでは資料４－１について現在の一般的な整備の考え方を簡単に説明する。３つの図面がありその下に赤字で必要天然芝面という記載がある。これは規則どおりで資料は間違っていない。これを合わせると 120m×80mの天然芝面というのが割り出されているが、これは視察した長野も松本も同じサイズである。
　問題はそのまわりの余白だが、これはサッカーとスペース的に似通っているラグビー関係者と、ここ３年ほど話し合いをしているが、具体的には芝刈り機がターンできる２、３mの余白が必要となる。よって 124m×84mくらいのフィールドサイズがあ

れば十分ということになる。ラグビー協会の小西事務局長と月曜日も話をしてきたばかりだが、そのサイズがあればフィールドサイズは十分という考え方になる。

（委員長）
　指摘いただいたように南長野、松本のピッチサイズから考えると 124m×84mというところが標準的なところという話である。

（委員）
　規定に関してだが、２万人の収容人数があればクラス１になる。４万人以上ないとクラス S にはならない。サッカーでは日本代表チームが試合する会場はクラス S なので、４万人以上が必要となる。クラス１というのはオリンピックの予選や、なでしこジャパンなどで、２万人あれば開催できる。

（委員）
　場所の問題、費用の問題も関係すると思うが、例えば４万人規模のスタジアムをつくる方がランニングコストが安くなることは考えられないか。この規模だとイニシャルコストがどのくらいでランニングコストがどのくらいかというのがないと、判断が難しいと思う。もうひとつ個人的な意見として、やはりある程度の規模の試合ができないと、つくる意味がないのではないか。

（委員長）
　施設の規模といってももちろんお金の問題もあるので、客席、ピッチにどの程度お金がかかる等を含めて規模を考えなければいけないと思う。
　実績やレギュレーションでは少なくともこういったことが決まっているという話だと思うが、実際お金のこと考えると最終的には必要な情報だと思うので、次回費用の話が出るときに確認したいと思う。

（委員）
　お客様がたくさん増えればランニングコストが出てくる可能性もある。おそらく今の時点でなかなか難しいと思うが、先ほどからの投資の問題も含め検討が必要だと思う。色々な材料が出てこないとわからないが、山梨の事情にあった適正規模が必要だと思う。例えば今回の収容人数についても、代表が来てくれればもちろん良いが、その辺も適正、身の丈ということを考えると、２万人というのをひとつの基準として考えたほうがいいと思う。投資をするという意味でも、先ほど初期投資とランニングという話もあったので、この辺も山梨の実情にあった適正規模、そういう基準をおきながら、これから検討していくべきではないかと思う。

（委員）
　参考までに、2019 年に熊谷がワールドカップのラグビーを招致したもので、当初の整備費用は 96 億だったが、途中から屋根をつけなければならなくなり、それだけで 124 億になっている。先ほどからあるように、コストも含めて議論すべきかと思う。

（委員）
　観客をどのくらい呼べるのかという観点から適正規模を考えたときに、資料４－３にあるような、広島や山形や千葉や大阪、長野などのデータは参考になると思う。一方で、過去の他地域でのＪリーグの実績では、スタジアムから直線距離で 30km 圏内に住んでいる人が観客数全体の８割から９割を占めるというデータもある。その意味

で、ベースとなる後背人口がどのくらいなのかというところが重要だと思う。資料にある他地域では後背人口がどのくらいで、かたや今回考えているエリアではどのくらいなのか。場所がある程度絞られて動かせないのであれば、当該地の後背人口に見合った規模にするのが妥当であろうし、あるいは２万人規模の観客席が絶対必要でそれをベースに進めるのであれば、２万人を確保できる後背人口がある場所を整備地点として選ぶ、といった考えが重要だと思う。

（委員長）
　後背人口のことも含めてそれはもちろん立地の話と関係してくるということになるため、少なくとも２万人以上必要という話からいくと、ではどのようなところに整備するかという点も関係してくる議論かと思う。
　実際後背人口としては確かにお示しいただいた中では長野、山形くらいが同じくらいかと思うが、それ以外は人口規模が大きなところだと思う。

（委員）
　大きいスタジアムはいいが、国際試合などはめったに行えない。私は 2001 年から 15 年間ヴァンフォーレを運営しているが、単純な人口比では、日本で１、２の観客数となっている。それを考えると、やはりこの資料のように２万人規模の施設だと感じる。３万人、４万人規模の施設をつくってもめったに人は集まらない。開催回数もＪリーグの場合は年間 20 試合と決まっている。例えば収益性を考えてコンサートをやるとしても、２万人、３万人集まるコンサートなどはめったにない。そういう意味では２万人、場合によっては２万人プラスアルファくらいが適正だと、実際運営している感覚としてそういう考えを持っている。

（委員）
　Ｊ１の平均の入場数は１万 7,000～１万 8,000 人で推移している。Ｊ１のスタジアムの平均キャパシティは約３万 2,000 人、Ｊ２の平均は約２万 2,000 人。３万 2,000 人が平均というのは、日産スタジアムのようなモンスター的なスタジアムがあるからだが、実はそういう平均入場者数の観点から、Ｊリーグの理事会の中では、ＪＩの１万 5,000 人の条件というのを２万人に引き上げてはどうかという意見がでている。もちろんそうなることによってＪ１ができなくなるスタジアムがたくさんあるので、いきなりそれに踏み切るということはないが、ぜひ２万人はなんとかキープしていただきたいと思う。
　もっと細かい話だが、観客席やＶＩＰや車椅子といういわゆる「本日の入場者数」にカウントできる数が２万人であって、例えば記者席、メディアのみなさんやテレビの実況放送の席など、これは２万人プラスでカウントした中での最低２万人を条件として設定いただければと思う。もちろんアクセスなどの機能、２万人が不自由なく行けるかなども考慮が必要だが、テナント側の基準で恐縮ですが、なんとか２万人はキープしていただきたいと思う。

（委員長）
　みなさんの意見を踏まえて２万人というところが少なくとも必要最低限という話があったので、それをベースに次回の資料作成をお願いしたいと思う。
　それと併せて費用の話があるので、実際観客席の規模というのは費用にどのくらい影響するのかということについても確認させていただきたいと思う。２万人をベースに検討いただき、その規模に対して費用がどう変化するかということについても検討

いただくことをお願いする。
　また、フィールド寸法についても費用と関係があると思うので、そういったことも含めて最低限である 124m×84mをベースに検討を進め次回説明いただきたいと思う。

（５）施設に付加されている機能例について
　議題（５）について、資料５により事務局から説明した後、次のとおり意見交換を行った。

（委員）
　機能面に関してはここに非常に多くまとめられているが、実際の利用状況など原状を把握できるものがないと判断が難しいと思う。

（委員長）
　付加した機能はいいがそれがかえって重荷になるということがないか確認させていただいたほうが良いと思う。

（委員）
　機能については、商業みたいに立地産業とまでは言わないが、立地する場所によってずいぶん機能もかわってくると思うので、このへんは立地の目処がついたときに深く議論すべきだと思う。例えばこのスタジアムのまわりでやっている店など、民業を圧迫しないことも必要だと思う。逆に何か機能として付加すればその地域の利便性が高まるなど、そのようなことがあればそれはそれとして検討すべきではないかと考える。

（委員長）
　まちづくりの意味でも、どこにつくるかというところで色々と役割も変わるところがあるかと思うので、そのようなこともあわせて議論させていただきたいと思う。

（委員）
　鹿島アントラーズには診療所があるが、これは鹿島のチームドクターと病院が一緒になりスポーツ外来と整形外科をしている。そのリハビリにコンコースを使うなど、非常にうまくいっている。ただスポーツ外来よりもむしろ最近はお年寄りが来て、リハビリをされる高齢者が多いと聞いている。非常にユニークな施設で参考になると思う。

（委員）
　当方の組織においても、スタジアム等の整備にあたり多機能複合化を推奨しているが、当該複合施設自体が収益性を確保したとしても、一方で周辺地域も含む全体として Win-Win になっているかというところが大変重要だと思う。一例を挙げると、長岡の駅前に庁舎とアリーナ等の複合公共施設があるが、駅前なのにその施設自体には飲食や商業が入っていない。理由は、当該施設に集まってくる多くの人に、周辺の民間商業機能へと回遊してもらってお金を落としてもらおうと、あえて収益施設をつくらなかったとのこと。このように、周辺の民間施設も含めて、地域全体として官民で連携して Win-Win となるまちづくりをしたという事例もある。施設自体の収益性と合わせて、地域全体の収益性や、地域全体で Win-Win となる関係づくりといったことを視点として入れていくことが重要だと思う。

（委員長）
　地域特性に応じてその役割分担も考える必要がある。施設本体よりも周辺も含めてどのような機能を付加していくかと、それが地域全体でプロフィット、利益を生むような形にしていくという指摘かと思うのでぜひそれも含めて次回の提案をお願いする。
　色々と意見いただき、色々と事例があるけれども実際どうなのかというところも含めて情報提供いただきながら、次回議論させていただきたいと思う。うまくいっているところを参考にしながらどのような機能が有効かということを議論させていただきたいと思う。

（６）その他

（委員）
　資料５でこれからどういう収益性を持たせるか検討、研究がスタートすると思うが、リニアの駅ができたらどういうニーズが４km 圏内の中で発生するのかということを教えていただければと思う。例えばこういうオフィスが必要だと言われたらそのオフィスを入れてしまうというのもひとつの手段になりえる。

（委員長）
　リニア環境未来都市の方も４km 圏内にどのような機能を計画しているかなども含め、次回協議できればと思う。

（事務局）
　次回は 10 月７日に予定している。第５回、第６回は具体的な日程は未定である。日程調整の方を委員の皆様にお願いする。

（委員）
　この委員会はマスコミを入れてオープンにしており大変良いことであるが、次にどこに作るかという議論をするときに、諸々問題が起きることが考えられる。途中経過を報道されたりすると色々な問題があるので、場所についての検討については非公開にした方が良いと思う。

（事務局）
　県の会議というのは原則公開になっているが、内容によっては非公開という場面もあるので、ついては、公開非公開の区分については検討させていただきたいと思う。

４．閉会
　　司会：渡辺政策主幹